

社協名	社会福祉法人 人吉市社会福祉協議会
-----	-------------------

住 所	熊本県人吉市西間下町 41 番地 1
電 話	(0966) 22-9192
ファックス	(0966) 25-1117
担当部署及び担当者	地域福祉班 久本 一富

テーマ番号	事業・取組み名
3	住民を主体とした生活支援サービス（体制）モデル地区の整備

取組みのきっかけ

人吉市生活支援体制整備事業に関わる生活圏域を小学校区と定め、その推進の第一弾としてより整備環境が整った（事前に校区別アンケート調査を実施）中原校区をモデル事業として先行実施した。

事業推進の中軸に、校区社会福祉協議会構成員（町内会長・民生委員・高齢者相談員・校区老連・老連シルバーヘルパー・健康推進員・小学校、PTA関係・駐在所・交通安全協会・市議団・ボランティア団体など）及び住民の一般参加による「校区の10年後を語る会」とした座談会（グループワーク）を地区別及び全体会の形式で開催した。

座談会を介し提起された問題、課題等々については、校区住民の共通の理解と認識の共有が図られたことは勿論、社協に様々に構成する組織活動時にフィードバックし情報の提供等を行ったことで、当該事業の一層の啓発、普及が促され本市地域福祉推進の底上げにつながられた。

* 取組み開始日（平成 29 年 4 月）

具体的な取組み内容と実施体制

- 第1回地区別（3地区）座談会（計80名参加）
 - ・開催の趣旨及び校区の概要説明
 - ・グループワーク
 - ①「地域の現状（支え合い等、困りごと、問題・課題等）を語る」
 - ②「地域の将来（10年後）の姿を語る」
- 第2回（全体）座談会（35名参加）
 - ・前回（地区別座談会）まとめの報告及び協議
 - ・グループワーク
 - ①困りごと等の実態把握
 - ②生活の支え合いの体制づくり
 - ③地区別の特色ある事業展開の在り方
- 校区社協及び校区公民館合同研修会（講演会）の後方支援（100名参加）

- ・ 演題：地域の支え合いによる元気なまちおこし・まちづくり
- ・ 講師：宮崎県日之影町社会福祉協議会事務局長

※会場の提供に際して、地域に立地し、地域と融合、開かれた「特別養護老人ホーム」を営む社会福祉法人の協力があり、更には多面的な地域支援体制が整っている存在にもある。

*平成30年度予算額（ ）千円

事業実施の効果

当該事業に対する住民意識の変化と認識の共有、地域の連携・一体化の高揚が図られ、年度末には民生委員が主体となり地域の要援護者（200戸程）を対象に、「日常の暮らし困りごと等」についての個別訪問による聞き取り調査を実施していただいた。

また、地域福祉を司る校区社協・校区公民館の合同研修会として地域住民を対象に自主講演会を開催され、住民が・地域がひとつにまとまり、これからの地域づくり推進の糧となるよい機会となった。

結果に、「第2層（中原校区）協議体」の設置が終了し、その貴重な足掛かりともなった。

今後に向けて（課題など）

○第2層生活支援コーディネーター像が不明瞭な状況にあり、選任配置に遅れを生じている。

・受託事業者（社協）が想定するスタイルを持つも、委託者（市）が示す自治体の規模、施策等の視点に即したあり方（整合の観点）の検証が問われる

○第2層協議体及び生活支援コーディネーター等活動拠点（身近な地域）の必置性を重視するも適切な場所確保が困難であり苦慮している。

・校区公民館（コミセン）の活用が専ら想定されるが円滑な運びには行政の多様なハードルが潜在し時間を要する。

高齢者の生活支援には

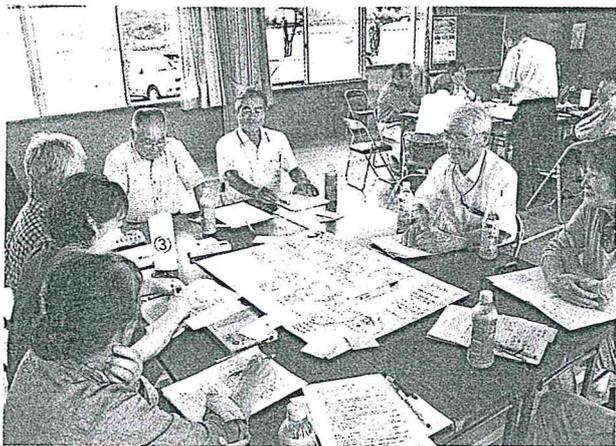
10年後の中原校区見据えて住民が課題出し合う

高齢化が進んでも安心して暮らせる地域社会について考えてもらおうと、人吉市の中原校区で先月22、23、26の3日間、「10年後の中原校区を語る会」が中原コミセンで開催された。参加した住民たちはグループワーク(班別討議)で高齢者の生活支援に関する現状や課題を出し合い、10年後を見据えて認識を新たにした。

主催は、介護保険の生活支援体制整備事業を進めるために昨年11月に設立された協議体「生活支援体制整備推進協議会(才尾弘太郎会長)。

2025年には、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、超高齢化社会を迎え、今後は地域住民同士が助け合う「互助」

による地域づくりが求められている。将来に備えて各地域の生活支援体制整備を進めていくため、住民自らが地域の課題を出し合い、どんな手助けができるのか意識の醸成を図ろうと、中原校区をモデル校区に初めて開催した。



グループワークで課題を出し合う住民たち

22日は上原田町と下原田町、23日は中神町、26日は上、中、下林町と温泉町を対象に集まり、3日間、約80人が参加。

3日間とも午前9時半から始まり、事務局が開催趣旨と中原校区の現状を説明後、参加者は各班に分かれて高齢者の日常生活支援で現在できていること、今後あれば助かるものについて出し合い、最後に発表する形で進められた。

中原校区の現状、

中原校区の現状、

人口6421人のうち65歳以上が2123人で高齢化率は33.1%。今後の動態として、高齢者数は2020年をピークに減少していくが、人口自体も減っていくため高齢化率は上昇。2025年には人口5696人、65歳以上2096人、高齢化率36.80%が見込まれる。

参加者からはさまざまな課題が出され、在

宅介護では介護者が疲れてしまう。周囲の支援があれば「市役所に行けない人も出てくる。コミセンで手続きできる体制を」地域のリーダーも高齢化しており、若い世代が会合に出てこない。次世代のリーダー育成が必

要「耕作放棄地や空き家が増加する」。

このほか、同校区内で運行されている豆バスの利便性向上、買い物支援のPRを求める意見もあった。

事務局は、今回出された意見を取りまとめ、次回11月にも報告と討議を予定している。

経済かわら版

お1人様でも雀荘240Zへ

人吉市紺屋町の共栄ビル2階に、同市初のフリー雀荘「雀



料金はフリー半荘で500円、セット1時間は1000円。

「人吉でフリー麻雀をほらさせたい。雀をほらさせたい。フリー雀荘は、1人でも気軽に来店ください」と代表の熊澤佳寛さん。月曜日が定休。

問い合わせは熊澤さん(携帯電話080・2797・1237)まで。

寄付

◎熊本地震チャリティーコンサート2017実行委員会(春口敬代表)はこのほど、御船町の平成音楽大学

にコンサートの収益金と募金箱に寄せられた総額139万3017円を贈った。

同コンサートは昨年、熊本地震の発生後にチャリティーとして開かれ、2年目のことは1000人を超え

る。来場者があった。今回は、地震の被害が大きかった同大学の



復旧の支援として贈った。

春口さんは「復興に役立ててください」と出田敏三理事長に目録を手渡した。

全国の各店舗でペットボトルキャップを回収し、リサイクルした対価をワクチンの購入費に充て、発展途上国の子どもたちに届けるキャンペーンを継続して取り組んでいる。

同校では、ボランティア委員会が各教室に箱を設置し、生徒や教職員らが持ち寄ったペ

ットボトルキャップを回収。今回は約半年で集まった分を贈った。

3年生の山口視良衣委員長、告見信之丞副委員長、書記の岡村玲那さんが同店を訪れ、担当者にペットボトル

キャップを託し、感謝状を受け取った。

山口委員長は「最初

はこんなに集まると思っていなかった。今後この活動が続くように頑張りたい」と話していた。



中の生徒ら

交通取締情報
【2日(土)】
午前
▽水俣市桜井町(国道

アコンの洗浄受付中! 部のカビ、嫌なニオイの除去に! 市販の洗浄スプレーでは取れない

イテム音響

徳山みかげ特約店 ~自社製造~

困ったときの便利な味方 住宅の修理、清掃、ゴミ片付け、草刈り、植木の剪定、引越、買物、木工家具作り、その他なんでもご相談下さい。

10年後の中原校区を語る会

人吉市生活支援体制整備事業の取り組みの第1弾として、中原校区にお住いの皆さまと座談会を開催し、8月22日/上・下原田、23日/中神、26日/林・温泉の3地区で、合計80名の方に参加いただきました。

◆ テーマ「中原校区に暮らして良かった!」と思えるような地域づくりを目指して… ◆

話し合いの視点

- 例えば、今は自分で運転をしてどこにでも行けるけど、10年後には免許を返納するかもしれない。その時に、病院や買い物にはどうやって行ったらいいんだろう。
- 自分のため、子どものために…安心して生活するために、どういう地域になったらいいか?
- 日常生活での支え合い、助け合いを充実させるにはどうしたらいいか?
- 自分たちの地域で、支え合いが出来ている事って何があるだろう?

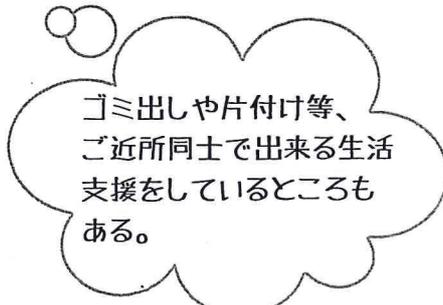
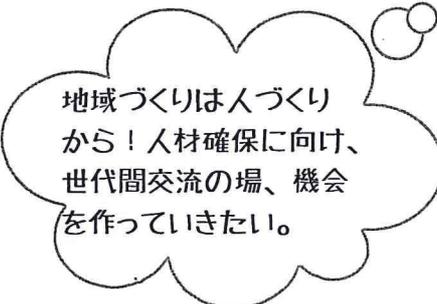
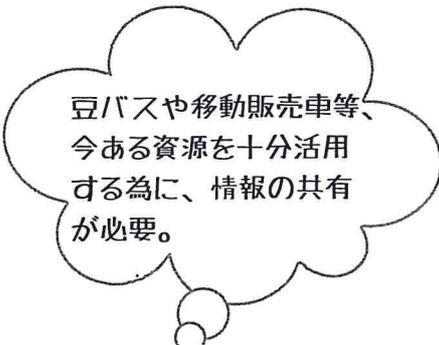
参加された皆さまから…



という声が数多くありました。

社会現象「2025年問題」が背景にあります。

10年後の2025年には、団塊の世代が後期高齢者となり、「超・超高齢社会」を迎えることで、社会環境が大きく変化し、様々な問題が予測されます。将来に備えるために、いま出来ることから始めるものです。



参加者のアンケートより

- ・参加して、地域のことを知ることができ、よい機会になった。
- ・すぐに解決できるものではないが、話し合うことの大切さを痛感した。
- ・これで終わりではなく、繰り返し継続して開催することが大切だと思う。

次回の参加についても、ほぼ全員の皆さまから『参加できる』という嬉しいお答えをいただきました!

第2弾の座談会を11月に企画しています。

みんなが主役、支え合う笑顔の町を作るため、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

支え合いまちを元気に

生活支援体制整備 中原校区で合同研修

人吉市中原校区の社会福祉協議会と公民館の合同研修会はこのほど、同市下原町の特別養護老人ホーム龍生園で開催され、約100人が出席して地域の支え合いと元気をまもつくりなどに理解を深めた。

同校区は、介護保険法の地域支援事業に基づいて市が社会福祉協議会に委託、発足した「生活支援体制整備推

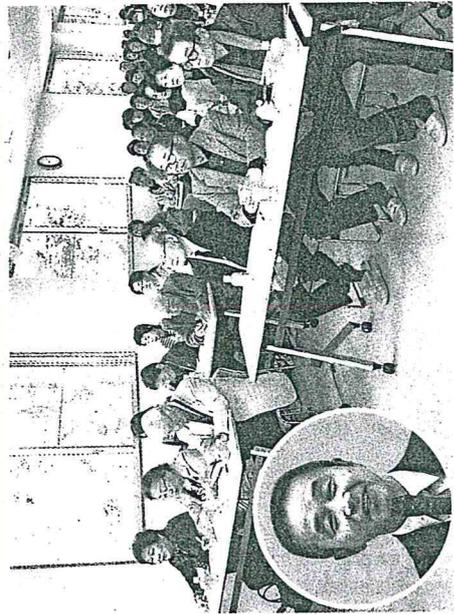
進協議会」の下、身近な地域で具体的な活動を担う第2層の協議体のモデル校区として、地域課題の抽出や意識の醸成など、他地域に先行して進めている。

合同研修会は町内会長会中原支部が後援。「地域の支え合いによる元気をまもろう。まもつくり」をテーマに宮崎県日之影町社会福祉協議会の一水英暁事務局長が講話した。

人口減少や高齢化など、中原校区も共通する日之影町の現状にふれ、「平均寿命が延びて生きがいや困り事も多様化し、行政や社会、専門機関が与えるだけの福祉は限界。生活に密着した困り事などの解決は地域の力が必要」と切り出した。

住居がボランテアで一人暮らしの高齢者などの困り事を考える取り組みや空き民家を活用した集いの場、買い物支援など同町での取り組みを紹介。「日常生活の困り事を相談しやすい、抱えまわらない意識付けや生きがいづくりなど、必要と始めたことが介護保険などの制度につながっていると効果を挙げた。

一方で、「子どもと高齢者の福祉の連携。ボランテアは縦割りの現状。その枠を払って互に見守り支え合



一水局長(円内)の話を聞く出席者

大人と子ども仲良くプレイ

人吉西校区GG人吉市西校区公民館(城本雄二館長)の第7回西校区民ふれあいグラウンドゴルフ(69)大会がこのほど

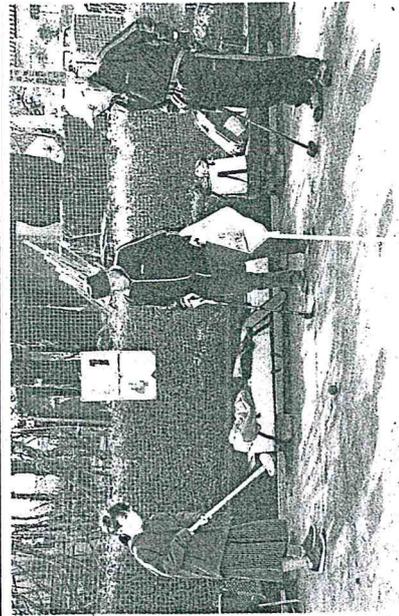
人吉西小学校で開かれ、大人の部は鶴田町の新倉健二さん、子どもの部は駒井田町の松本亮斗君がそれぞれ優勝した。

競技を通じて参加者同士の間睦と融和を図る目的で開催され、大人

の部に3チーム、子どもの部に5チームの約200人が出場した。好天に恵まれ、城本館長は「互いに協力し、助け合いながら仲良くプレイしていただき」とあいさつ。参加者が各チームに

関係づくりができた」と課題を提起。「支え合いと元気をまもつくりを進めたい」として、この研修会に集まった皆さんが地元をよく知る地域資源と呼び掛け、出席者は校区や市の今後の取り組みに生かすこと熱心に学んでいた。

分かれてスタート。子どもも大人と一緒にウズドゥ、和気あいあいとして楽しんでいた。なお、ホールゴルフは38本だった。成績は次のとおり。▽大人の部



- ①新倉健二(鶴田町) ②那須照(互屋町) ③梅田小り子(同) ④中村良郎(中書井町) ⑤小谷守(下書井町) ⑥子どもの部
- ①松本亮斗(町) ②佐藤和(町) ③松本あ(井田町) ④岡本(原町) ⑤野呂(井田町)

詰将棋 九段内藤國雄

持駒：金 銀 桂

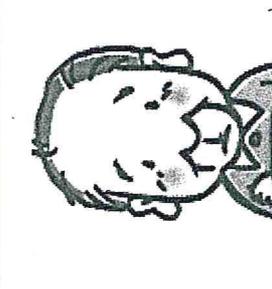
一	二	三	四	五	六	七	八	九
1	馬	王	王	王	王	王	王	王
2	馬	王	王	王	王	王	王	王
3	馬	王	王	王	王	王	王	王
4	馬	王	王	王	王	王	王	王
5	馬	王	王	王	王	王	王	王
6	馬	王	王	王	王	王	王	王
7	馬	王	王	王	王	王	王	王
8	馬	王	王	王	王	王	王	王
9	馬	王	王	王	王	王	王	王

【解答】
1四桂、1三玉、2三銀、同玉、2四馬、3三玉、2二桂成(同玉、2三金)同銀、4二金まで9手詰め。
1四桂を同歩は2三銀以下簡単。1三玉に2三銀と玉を呼び出した四馬と押さえて2二桂成が決め手です。このとき4一玉は1一金。

詰将棋 七段趙

一	二	三	四	五	六	七	八	九
1	馬	王	王	王	王	王	王	王
2	馬	王	王	王	王	王	王	王
3	馬	王	王	王	王	王	王	王
4	馬	王	王	王	王	王	王	王
5	馬	王	王	王	王	王	王	王
6	馬	王	王	王	王	王	王	王
7	馬	王	王	王	王	王	王	王
8	馬	王	王	王	王	王	王	王
9	馬	王	王	王	王	王	王	王

【解答】
黒1のロスミが手筋。2なら黒3のホウリ好手。黒5に白は少く種石を取る事ができます。



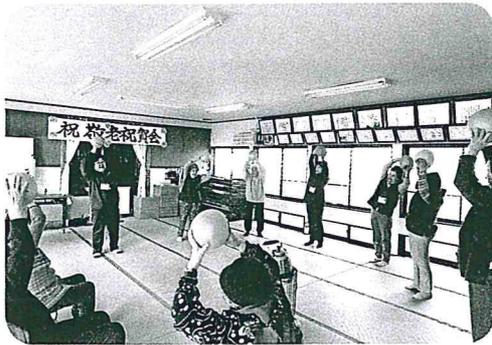
～中原だからできる、中原に合った地域づくり～ 「10年後の中原校区を語る会」 第2回座談会を開催しました！

人吉市生活支援体制整備事業の取り組みの第2弾として、11月25日に中原校区にお住まいの皆さまと座談会を開催し、33名の方に参加していただきました。まずは、第1回座談会で出た意見のまとめを久本生活支援コーディネーターより報告し、その後、住民同士でできる日常生活の助け合いについて上・下原田地区、中神地区、林・温泉地区に分かれて、ゴミ出し等の支援の助け合いをされている所の紹介や、日常生活の困りごとを把握する方法、有償ボランティアのあり方等について話し合いました。



- 上・下原田地区**
 - ・社会福祉法人「龍生園」を地域の拠点施設として連携を深めていきたい。
 - ・地域サロン活動が活発に行われている。
- 中神地区**
 - ・中神温泉では余剰野菜の提供が行われ、憩いの場となっている。
 - ・紅取交流サロンを、地域内外の人達との交流の場として活用したい。
- 林・温泉地区**
 - ・ゴミ出し支援を、向こう三軒両隣の精神で行っている。

たくさんの地域の情報やアイデアをいただき、ありがとうございました！
これから、日常生活の困りごとについてのアンケート調査を、デイサロン会場や戸別訪問で実施する予定です。ご協力よろしくお願いたします。



ガンバルーンボールで体操中



今回は下薩摩瀬町地域学習センターの「あさデイ」におじゃましました。下薩摩瀬は、参加者に加えて、お手伝いいただく方も多い会場です。取材日は寒い日でしたが、9名の方が参加されました。

この日のメニューは、ガンバルーンボールを使った体操とタオル体操です。柔らかいガンバルーンボールを使うことで、体操だけでなくストレッチで体を伸ばしたり、血流を良くする効果を得ることが出来ます。体操中は笑顔が絶えない会場で、「笑うこともひとつの体操ね!」と言われていました。休憩中も料理の話で盛り上がり、仲の良さが伺える会場でした。

「あさデイ」は、デイサロンの午前中版として月1回、市内30会場で開催しています。参加費は無料で、65歳以上の方であればどなたでも参加できます。一緒に体を動かしませんか?皆様の参加をお待ちしています!

デイサロン見学記

②③

下薩摩瀬町地域学習センター